

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500030
法人名	株式会社 お茶屋の里
事業所名	グループホーム 下の茶屋
所在地	愛媛県新居浜市西の土居町2-8-23
自己評価作成日	平成23年8月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

重度になられても、ターミナルに近いケアが出来るよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●事業所の夕涼み会には、地域の方やご家族にも足を運んでいただけるようにバザーのチケットを配布された。職員のアイディアでフリーマーケット等も行い、参加者も楽しまれ喜ばれたようだ。
●会議に地域の方が参加してくださることで、ボランティアの輪が広がってきており、夕涼み会時のテント張りや車いすの介助等を手伝ってくださったり、利用者のお誕生会には、津軽三味線を披露してくださった。
●調査訪問時は、利用者に懐かしいような曲を流しておられ、昼食後は、曲に合わせて歌う利用者もみられた。新居浜太鼓台のポスターを貼っておられたり、毎朝、皆で「新居浜小女郎たぬき」の音楽に合わせて体操をされている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい の				2. 家族の2/3くらい と
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日 ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらい が				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらい が				2. 職員の2/3くらい が
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらい が
			3. 利用者の1/3くらい が				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらい が
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらい が				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 下の茶屋

(ユニット名) コスモス

記入者(管理者)

氏 名 筒井 房代

評価完了日 平成 23 年 8 月 24 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			朝礼で毎朝唱和している。	
			(外部評価)	
			昨夏、職員で理念について話し合い「笑顔、感謝、交流」と作成され、玄関、居間や事務所に掲げておられ、毎朝、唱和して理念の再確認をされている。職員は、唱和することで「今日一日頑張ろうという気持ちになる」と話されていた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価)	
			月1回施設周囲の清掃や、運営推進会で地域の情報を得て地域の行事に参加している。7月にも夕涼み会を開き近所の方々を招待し沢山の方が参加して下さり、楽しいひと時を過ごすことが出来た。	
			(外部評価)	
			事業所の夕涼み会には、地域の方やご家族にも足を運んでいただけるように法人介護事業所のパンフレットにバザーのチケットを付けて配布された。職員のアイディアでフリーマーケット等も行い、参加者も楽しまれ喜ばれたようだ。中学生の職場体験を受け入れた際には、生徒は、利用者と風船バレーをしたり、洗濯ものをたたむ等して一緒に過ごされ、普段は居室で長時間過ごす利用者も、居間で生徒と一緒に、笑顔で過ごされたようだ。地区の運動会も見学に行かれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			運営推進委員会等で、地域の方々と情報交換をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価)	
			2ヶ月に一回運営推進会議を行っている。ホームでの取り組 みの報告をしたり、アドバイスを受たり、ボランティアの協力 の輪が広がっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(外部評価)	
			会議には、公民館長、自治会長、民生委員、ご家族等が参 加されている。会議に地域の方が参加してくださることで、ボ ランティアの輪が広がってきており、夕涼み会時のテント張り や車いすの介助等を手伝ってくださったり、利用者のお誕生 会には、津軽三味線を披露してくださった。会議では、事業 所から活動の報告や認知症の症状やケアの事例を発表し て、参加者と意見交換等がされている。	管理者は、今後さらに、地域の方に認知症について知って いただくために、会議を活かして「認知症の勉強会」を行いた いと考えておられた。会議への参加者についても工夫し て、多くの方に理解を深めてもらえるよう取り組みをすすめて いかれてほしい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			拘束についてはスタッフ間で話し合いをして理解を深めてい る。(特に無意識に力が入らないように気をつける。)	
			(外部評価)	
			ユニットごとに事例を挙げる等して「どのようなことが拘束にあ たるか」ということを話し合っておられる。ベッドから転落する 心配のある利用者の中には、床に畳を敷き、生活しておられ る方もいる。ベッドの足もと等にセンサーを付けて、鳴ると職 員が駆けつけるようになっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ会等の場で介護方法や言葉遣いなどを話しあったり介護技術については会の終わりの時間を利用して勉強していきたいと思っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者及びリーダーは研修等で学んでいるが、全職員のものとなり得てない。スタッフ全員が理解できる様に、今後勉強会を持ちたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時等に重要事項の説明を行い納得して頂き契約している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月1回、家族へ利用者の現状を報告したり、入り口には意見箱の設置をしている。家族にも行事に参加して頂き一緒に過ごす機会を設けたり、来所の折などには、何か意見や要望などがないか声かけをしてサービス計画などにも取り入れている。 (外部評価) ご家族の来訪時には、利用者個々の担当職員がご家族に声をかけてコミュニケーションをとり、ケア等についての要望等をお聞きしている。新人職員の紹介は、毎月お送りする「下の茶屋便り」にて報告をされている。遠方に住むご家族には、電話等でも近況報告をされている。さらに、利用者の日常の暮らしの様子・事業所が力を入れて取り組んでいること・職員研修の報告等、ご家族が知りたいような情報を知ることができるような報告の工夫を今後も重ね、ご家族から事業所のケアサービスについてより具体的に意見や要望を引き出していかれてはどうか。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎月1回全体会やユニット会を行いスタッフ全員で話し合いを行っている。各行事などの担当を決めて全員で協力できる様計画している。	
			(外部評価)	
			職員個々の得意なことを活かして取り組めるよう、行事等も担当を決めてすすめておられる。節分の行事時には、担当職員が衣装やお面等を工夫されて、利用者に好評だったようだ。「利用者の写真を早くご家族に届けたい」との職員の希望もあって、現在、法人に写真プリンターの購入を提案しているところである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			研修への参加の呼びかけを行い、自ら参加したい研修を受けられる様配慮している。休憩時間も十分とれなかったり、時間外になる時もあるため、スタッフで話し合い改善できる方向で努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			事業所外での研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにし、全体会で発表し共有するよう努めている。業務の流れのマニュアルに沿って、新しいスタッフが慣れるまでその人に合わせたペースで指導者が付くよう勤務等工夫している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			東予地区や、中予での研修、交流の場に積極的に参加している。又、グループホームの相互研修で交流を持ちサービスや質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前に面接を実施し、体験して頂いたり本人や家族からの話を十分聴いて努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 新規入居時には本人や家族と十分に話をしている。入居後 も折にふれ意見や希望する事などないか家族に声をかけて いる。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族 等が「その時」まず必要としている支援を見極 め、他のサービス利用も含めた対応に努めてい る	(自己評価) 受診を希望される場合支援出来る様努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	(自己評価) その人の出来る部分を生かし、一緒に掃除をしたり、洗濯物 干しや畳みなどお願いして手伝ってもらっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族に情報を提示したり、下の茶屋便りを送付して行事への 参加の声掛けなどして関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めてい る	(自己評価) いつでも誰でも来てもらえる様にしている。近所から入所さ れている方もおり、遊歩道の散歩中になじみの方とお話した りすることも出来ている。 (外部評価) 散歩時に、知り合いの方に出会うようなこともあり、野菜をい ただいたり、お花見に誘っていただいたこともある。入居前に 住んでおられた法人の高齢者マンションのお友達が会いに 来てくれるようなこともある。調査訪問時、利用者の食事介助 に來られているご家族もみられた。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 居間に閉じこもらない生活を送って頂いている。ホールで他の入居者の方と過ごされる時間が多いが、そういう時間には一緒に歌を歌ったり、話の合いそうな他のユニットの入居者様とも交流出来るよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院から他施設へ移るケースが多く、その後の関係が切れてしまいがちである。入院で退所されてもお見舞いなどで病院に足を運び本人や家族さんと話をしている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段の会話に折り込んで聞いたり家族の訪問時に情報を得る様にしている。本人や家族の希望に添えるよう努力している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりに担当職員を配置しておられ、個々の情報収集を行っておられる。意思の表出が難しいような利用者もおられるが、職員は、ご本人の表情等を見ながら関わるように努めておられる。入浴時等に、ご家族への思いや普段思っていること等を話してくださる利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に家族、担当ケアマネから情報を得るようにしたり、入居者様との会話の中からも情報収集出来る様努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者様の行動を観察し、会話の中から性格やなじみの暮らし方を探る様にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			利用者の現状や思い家族の思い、課題などを多数のスタッフそれぞれが感じている事を洗い出し、その中から共通点を見つけ介護計画作成に反映させている。又、担当者がアセスメント、モニタリングを書き出してサービス担当者会議で協議している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(外部評価)	
			介護計画は、毎月モニタリングを行い、3ヶ月ごとに見直すようになっている。入居間もない頃、落ち着かない状態の利用者へは、ご家族ともケアについて相談しながら取り組まれ、ご家族に頻繁に訪問してもらったり、居室で一緒に食事していただく等、協力し合ってご本人が事業所の暮らしにゆっくり馴染めるように取り組まれた。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			事務室入り口に各利用者のケアプランや目標を掲示し、スタッフ全員が共有する事でより明確な視点に立ちケアの実践と記録に生かしている。	
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			お誕生会の外出や外食の支援などの際に、家族を招待したり家族が来られないときは、スタッフがボランティアで支援に入ったりすることもある。行事のある時は外部の人的支援、物理的支援網が出来つつある。	
		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			花見、夕涼み会等地域の自治会、老人会など、協力を頂きながら招きあって交流を図り楽しんでいる。近所のお寺の花祭り(胡魔依)等に参加し、昔ながらの風習を大切にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			入居時に希望の受診先を聞いている。往診の際、本人や家族の希望、本人の状態を付き添ってドクターに伝える支援をしている。外部の病院を受診される際は家族さんの希望でスタッフが同行するときもある。受診しやすいよう送迎などの支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(外部評価)	
			2週間に一度、協力医療機関の往診がある。協力医療機関以外の病院を受診する際には、ご家族が付き添うようになっているが、ご家族の都合によっては職員が同行されている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			看護職は在職していないので、利用者の状態や気づきを職員同士で伝え合い共有し、家族とも連携し合い、月2回の往診時や緊急時に、ドクターと相談したり通院受診の支援をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	自己評価	
			入院時は担当ドクター、看護師、ソーシャルワーカーとの面談を行っている。	
			(自己評価)	
			充分に出来ていない。	
			(外部評価)	
			事業所は、入居契約時に「口から食事ができる間は事業所で支援できる」ことをご家族に話しておられる。重度の利用者には、できるだけ安楽に過ごしてもらえるように配慮されたり、体調等の変化にも早く気付けるよう観察することに気を付けておられる。最期は、医療機関やご家族と相談して、病院に入院となることが多いようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応はマニュアルをつくり勉強会を行っている。訓練等は行っていないので、今後改善する必要がある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行っている。 (外部評価) 近くにある介護施設と一緒に避難訓練を実施されたり、夜間想定避難訓練や消火器の使い方を習われた。いざという時には、法人本部に連絡すると、一斉に必要な機関に連絡が入る体制となっている。事業所は、建物の2・3階に位置していることから、火災発生時は、ベランダに集合することになっており、いち早くベランダに避難できるような訓練にも取り組んでおられる。スプリンクラーは、今年の10月に設置予定となっている。	事業所と地域とのネットワークも活かして、今後さらに、災害時に地域と協力し合えるような体制作りもすすめていかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) その人らしい暮らしが出来ているか、利用者本位の支援が出来ているかを常に考えながら支援している。役割を持って貰いながら何気ない支援の中、尊厳・誇り・プライバシーを保つ言葉かけや居場所、環境作りの見直しをしている。 (外部評価) 職員は、外部研修で認知症について勉強されたり、介護スタッフの心構えを学び、すべての職員で共有されている。	職員の利用者への対応や言葉かけ等について、職員で集まり点検したり勉強する機会を作ってはどうか。職員個々のスキルアップから事業所のケアの質向上を目指していかれてほしい。さらに、そのような取り組みを運営推進会議時やご家族にも報告して、ご意見や感想を聞いてみられてはどうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) スタッフの一方的な支援にならないように声掛けに注意している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のその日の状態により起床時間、食事時間を合わせ る様心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 自分でコーディネート出来ない人はスタッフがその人に似合 う様なコーディネートをしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) デイサービスや高齢者マンションも併設しているので、施設 全体の集合の厨房があり、ホーム自体では直接調理はして いない。月に一度手作りの日を決めているが、職員と一緒に 料理する事は難しくなっている。後片付けやタッパー出 しなどは、職員と一緒にして頂いている。 (外部評価) 月1回、お好み焼き・焼きそば等「食事を手作りする日」を設 けておられる。敬老会時には、誕生会も兼ねて行う計画と なっており、お刺身の舟盛りでお祝される予定となっていた。 調査訪問時、ご自分で下膳されている利用者もみられた。利 用者の状態によって、ペースト状にして食べやすく調理され たり、介助が必要な利用者には、ゆっくり食事ができるようか かわっておられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量や食事摂取量を把握し記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアでは一人一人に合わせたケアと、毎夜 の義歯の処置であるポリドントを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄チェック表によりリズムを把握し、声掛けやトイレ誘導に心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(外部評価)	
			入居間もない頃、職員は、利用者との信頼関係作りに取り組み、利用者の排泄の状態をみながら、できるだけご自分の力で排泄できるような支援に向けて取り組んでおられる。車いすを使用する利用者も手すり等を使ってご自分の力で排泄できるようサポート等をされている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			週3回以上の入浴を実施し、失禁後などは入浴又はシャワー浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(外部評価)	
			ご自分のシャンプーや石けんを使用されている利用者もおられる。シャワー椅子を使用する利用者もいる。	
46			(自己評価)	
			入浴後の休息やバイタルチェックを目安にするなどして、個人の体調に合わせて居室やソファで横になってもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 毎回、服薬確認を行い、薬に変更があった時には数日間個別の記録をとり注意している。また副作用の状態にも気をつけ変化の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 身体的、能力的状況を見極め本人の要望も取り入れて各個人に合わせた支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候の良い時は各人の身体状況に合わせ、近くの遊歩道に散歩に出かけたりお誕生日には職員やご家族様と外食に出かけている。 (外部評価) 利用者は職員と一緒に、散歩される際に近くにある系列グループホームに立ち寄られたり、おやつや趣味のものを買いに出かけたりされている。お正月には初詣に出かけたり、春にはお花見に出かけ楽しまれた。回転寿司に出かけた際には、食べたいものを職員と選びながら食事を楽しまれた。	外出支援については、利用者個々の行ってみたい場所やなつかしい場所等をさらに探り、出かけてみるような支援をすすめてみられてはどうだろうか。又、外出支援については、ご家族の要望等も聞き取りながら、介護計画に採り入れる等されて、より個別で細やかな支援に工夫を重ねていかれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理が出来ない人が殆どであるが1名は本人の財布を事務所で預かり買い物の要望時に同伴にて介助、支援を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の能力に応じ支援しているが、電話や手紙のやりとりが出来る能力が低下し困難な状態である。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			季節の草花や置物を置いたり、利用者さんの日常生活を撮った写真を飾ったりして居心地のよい空間作りになっている。	
			(外部評価)	
			調査訪問時は、利用者に懐かしいような曲を流しておられ、昼食後は、曲に合わせて歌う利用者もみられた。新居浜太鼓台のポスターを貼っておられたり、毎朝、皆で「新居浜小女郎たぬき」の音楽に合わせて体操をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			テレビの付近にはソファを置いて、利用者同士でくつろげるように又西側の窓下には一息できるように、畳の座を上げている。台所はスタッフと利用者対話ができる様対面式のカウンターにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			入居時に安心して生活できるよう馴染みの物、今まで使っていた物を持ってきていただくようにしている。家具やベッドの配置も使い勝手の良いようにお願いしている。	
			(外部評価)	
			仏壇を持ち込んでおられたり、母親の写真を飾っておられる利用者もみられた。職員からの誕生日プレゼントの色紙を飾っておられる方や、金魚を飼っておられる方、化粧道具を置かれている方もみられた。モップを置いて、ご自分で掃除をされる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			トイレのドアには利用者が分かるよう絵表示を取り入れている。転倒防止に手すりを取り付けている。安全面で不安のある人についてはセンサーを設置し本人の行動を察知した介助方法を行っている。	